



諏訪清陵SR便り

SR 課題研究発表会・附属中学校学習発表会開催（諏訪市教育委員会共催）

～2月4日（土） 諏訪市文化センター大ホールほか～

平成28年度SR課題研究発表会・附属中学校学習発表会が2月4日（土）に諏訪市文化センターで諏訪市教育委員会と共催で、一般市民にも開放して開催されました。今年度は、2学年SRコースの生徒が学校設定科目「理数課題研究」で取組んだ課題研究の成果9テーマ、1・2学年生徒全員が教科「情報」で取組んだ研究の成果4テーマの計13テーマの口頭発表、SRコース課題研究9テーマ、1学年教科「情報」で地元の企業を見学、取材のうえ課題を設定して取組んだ成果をポスターにまとめた24作品、2学年教科「情報」で一人ひとりが取組んだ課題研究のポスター発表を行いました。

また、同時に附属中学校の全学年の学習発表会も開催しました。

発表会は4部構成で、第1部附属中学校学習発表会概要発表、第2部教科「情報」口頭発表4テーマ、第3部SRコース課題研究9テーマ、そして第4部はSRコース・教科情報のポスター発表と附属中学校の学習発表会を並行して実施しました。

この形式で実施も3年目となり、企画・運営の方法は先輩から後輩へ引き継がれ、附属中学も高校も生徒の主体的取組みで、リハーサルから本番までスムーズに運営されました。今年は、どの部門の研究も内容が多様かつ深化され、生徒一人ひとりの興味関心に基づいたテーマを、いろいろなツールを使って情報収集し、それを適切に分析・考察したうえで成果を発表している姿が見られました。SSH事業が発展的に本校の日常の学習活動に定着した様子が見られました。

教科「情報」の4テーマは、「日本の城ってなんでかっこいいんですか？」「オタク文化は日本を救うか？」「日本語の未来を予想」「恋愛感情とは何なのか」と、いずれのテーマも発表者の興味関心から選ばれたもので、身振り手振りを交えた発表は好感が持てるものでした。また、内容が大変深く掘り下げてあり、聴衆の興味関心をもっとかきつけていました。

2学年SRコースの課題研究発表は卓越した探究活動を目指しています。

今年度は、17名のコース生徒が、昨年1月から色々な分野について一人5テーマを提案し、全員で討議したうえで探究に相応しい9テーマに絞り、5月以降9か月間グループで研究を協働的に実施してきたものです。

途中3回の中間発表では、進捗状況や結果の考察について遠慮ない討議をしながら研究を進めてきました。今年1月以降も、仲間の指摘を踏まえて実験をやり直したりして、さらに研究を深めてきました。

当日は、その成果を思う存分口頭発表やポスター発表できたようです。

発表会当日、一般生徒からの積極的な質問、助言等を期待したのですが、意外に質問が少なかった点は課題でした。



SRリーダーの指示で会場の音響、照明他一切の準備と運営を1日生徒が実施しました。



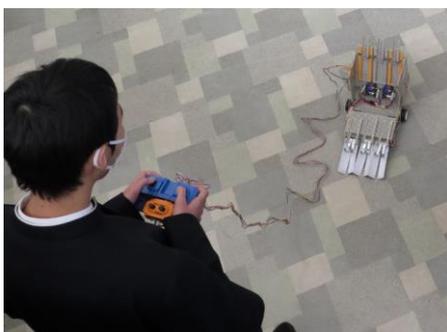
諏訪市文化センターに高校1,2年生、中学1,2,3年計720名、県内理数科生徒40名他保護者など900名の参加で実施しました。



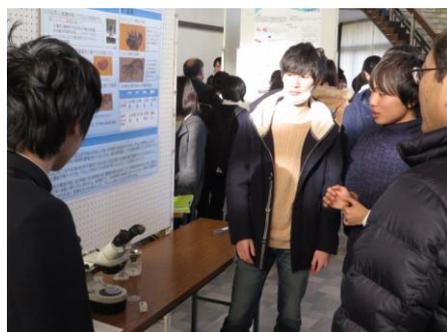
「オタク文化は日本を救うのか？」身振り手振りを交えて熱弁する1年生K君



諏訪湖のプランクトンの季節変動とその要因
長野県諏訪清陵高等学校 生物部 菅原 悠希 先生



中学校科学部のロボコン参加作品発表



諏訪市文化センターロビーで行われた課題研究ポスター発表

